別紙

平成２１年度　森プロ事業実績：中沢森プロ（恵南第２）

（平成22年3月末現在）

		H20年度	H21年度				5カ年
		実績	計画	実績	達成率	備考	計画
集約化(ha)		―	178	131	74%		598
作業道(m)		―	910	618	68%	作業路含む	5,340
間伐等	面積(ha)	―	115	55	48%	利用＋切捨	448
	材積(m3)	―	1,500	1,182	79%	支障木含む	11,300
備考		団地外実績（利用間伐：4ha、材積：231m3）					

H21年度利用間伐等における所有者への還元額（補助金含む）　2,000円／m3

施業集約化の状況
- 上・中・下の3地区ごとに森林整備推進員を各1名設置し、集約化進めている。
- 座談会及び森林所有者を戸別訪問し、施業同意を得る。

施業プランの活用状況
- 作成・活用予定なし（所有者ごとに施業管理ファイルを作成・配布し、施業後の状況を報告）。

施業プランナー等の養成状況
- 中核的な森林技術者：1名（H21実績）

作業道等の状況
- 車両系作業ｼｽﾃﾑ及び架線集材エリアを拡げるため、作業道開設（基幹道は全て外注）。
- 保有機械の規格、採算性、傾斜、土質、維持管理を考え、道幅は3.0～3.6m。
- 市道・林道等、既設基幹道の補修に労力を要し、その他全作業工程が大幅に遅れた。

既設道の補修①

既設道の補修②

<u>既設道の補修状況</u>
- 維持管理不足によって軽トラですら通過できなかった既設基幹道を補修（2,131m）。
- 路盤材を鉱物質の高い土に入れ換え、徹底的な転圧作業を行い、路盤を締め固める。
- 丸太組で盛土箇所等を補強（第1森プロチームがノウハウを伝授）。
- 必要に応じて、路面にアス殻や採石を敷き、トラック等の走行性を向上。

作業システムの状況

- 車両系ﾒｲﾝｼｽﾃﾑ：伐倒：ﾁｪﾝｿｰ→集材：ｸﾞﾗｯﾌﾟﾙ・ｽｲﾝｸﾞﾔｰﾀﾞ→造材：ﾌﾟﾛｾｯｻｰ→積込：ｸﾞﾗｯﾌﾟﾙ→運搬：ﾄﾗｯｸ
- 架線系ﾒｲﾝｼｽﾃﾑ：伐倒・枝払：ﾁｪﾝｿｰ→集材：ﾗｼﾞｷｬﾘｰ→玉伐：ﾁｪﾝｿｰ→集積：ｸﾞﾗｯﾌﾟﾙ
  →積込・運搬：ｸﾞﾗｯﾌﾟﾙ付ﾄﾗｯｸ(6t)
- 架線系新ｼｽﾃﾑ【未実施】：伐倒・枝払：ﾁｪﾝｿｰ→集材：ﾀﾜｰﾔｰﾀﾞ→造材：ﾌﾟﾛｾｯｻｰ→積込：ｸﾞﾗｯﾌﾟﾙ→運搬：ﾄﾗｯｸ施

伐倒・集材工程

造材工程

架線下を一列伐採し、集材機と搬器を使って集材。伐採列から斜めに横取集材を実施（列状＋定性間伐）。
今後、目標とする伐倒・集材方法は、帯状伐採（帯幅は樹高～樹高の2倍）による小規模皆伐＋低コスト造林。

その他

作業ｼｽﾃﾑOJT研修

中津川市森林組合と合同で高能率作業システムOJT研修を実施（H21.4.17）。

森林づくりのPR

森プロ団地隣接地にてあすみ住宅研究会との共催で産直住宅イベントを開催（H22.3.14）。

森プロの成果

- 集約化から施業実施に至る森林管理手法（森プロ団地内を大・中・小エリアに区分）が確立されつつある。
- 森林所有者に利益還元を行い、自己山林に対する管理意識の高揚。
- 基幹道の補修を実践することで、森プロチームの路網管理の意識レベル及び技術向上。
- 森プロを契機に結成した森林3課への森プロに対する共通認識の浸透と、高性能林業機械等のオペレーション能力の向上。

今後の課題

- １年目は、基幹道の補修に想定外の労力と莫大なコストを要した。
- その反省として、月単位（上・中・下旬）の工程管理の実施を行うとともに、市道等の補修にかかる費用負担について、恵那農林事務所の協力を得つつ市に要望していく。
- １年目に実施できなかった架線系新システムに取り組み、素材生産性の向上に努める。